

(1) 平成8年7月15日

学友会



NAKANIHON AUTOMOTIVE COLLEGE

学友会

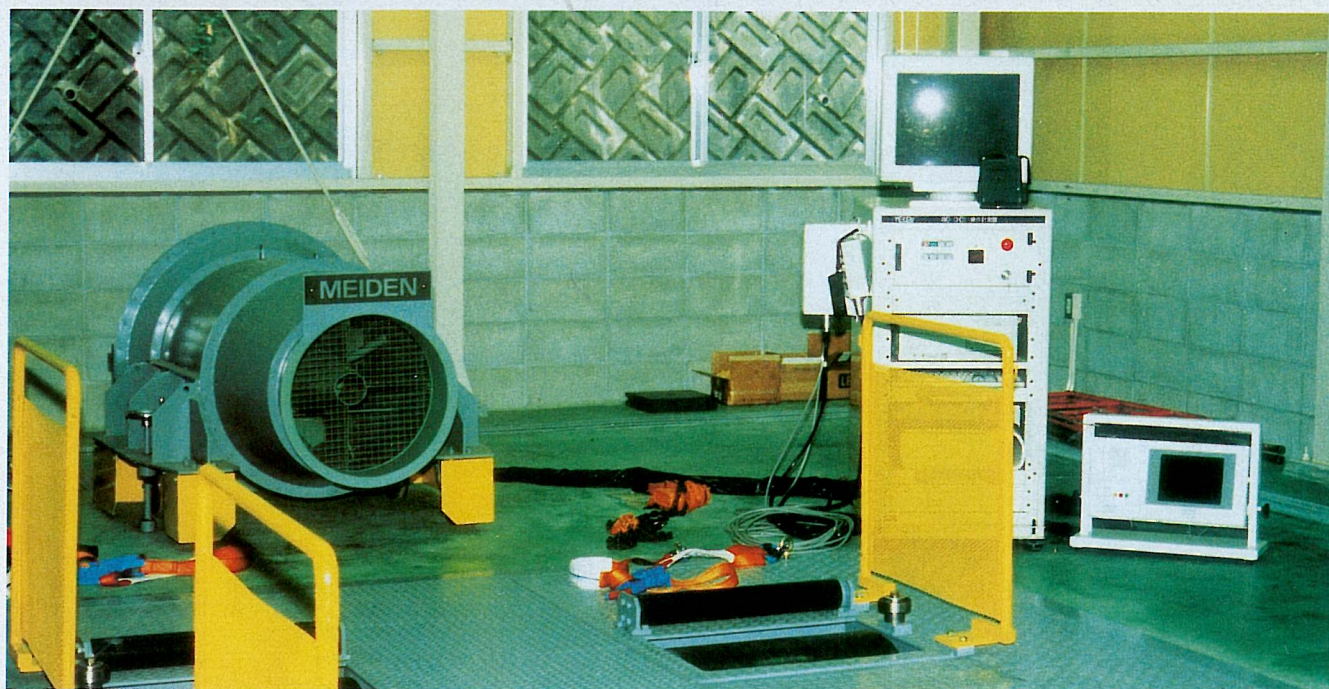
会報

第15号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深菅1301 TEL <0574> 26-7121

FAX <0574> 26-0840



新 実験棟 9号館完成!





会報発刊にあたって

学友会会長 丹地 章 夫

本年も会報発刊の時期となりま
した。

会員の皆様方には、益々御健勝
で御活躍のこと、お慶び申し
上げます。

平成八年度の事業計画も、順調
に実施されており、ここに御報告
させていただきます。

母校に於かれましては、七五五
名という開学以来最多の新入生を
迎え、時代に即した、新しい教育
が日々着々と行なわれており、心
強い限りです。

学生の皆さんには、是非今しか
できない事を精一杯やり、悔いの
ない時を過ごして欲しいもので
す。

さて、自動車業界は相変わらず、
厳しい状況が続いております。

今程 それぞれの立場で今をこ
つ生き、将来をどう見据えたら良
いかを真剣に考えている時は、こ
れまでになかった様に思います。
全てにおいて、使い捨てを美德の
様に考えた飽食の時は過ぎたこと
を痛感しています。

こうなつてまいりますと、益々
高度な技術なり、高レベルな能力
なり人格なりが求められてくる事
は必至です。

人は幾つになつても向学心を持
たなければなりません。その形は
個々により違つてくるとは思いま
すがここでもやはり、時代に即し

たその立場なりの前向きな努力が
大切です。毎回申しております様
に、この様な時こそ、かつて志を
同じにした友人、先輩、後輩は、
やはり心をおる程度さらけ出せる

貴重な、人生の宝、なのではない
でしょうか。

第十四号の会報にも載つてあり
ます、支部設置規則を参考にされ、
是非共新支部設立に向け、新しい
一步を踏み出して下さい。

学友会はそんな新鮮な力を期待
し援助して行くつもりです。
新支部設立役員一同心より願つ
ております。

そして、今現在何かとご協力頂
いております役員諸兄も、更に様
を正してそれぞれの立場での更な

る御協力を宜敷くお願い致しま
す。学友会は皆様一人一人の会
です。その気持ちで学校創立三十周
年を皆さんと共に迎えましょつ。
最後になりましたが、今回の会

報発刊にあたり多大な御協力、御
援助を賜りました、大学関係者並
びにOB諸兄、特に学内在籍のOB
諸兄に対しまして心よりあつく
御礼申し上げます。



学長あいさつ

中日本自動車短期大学
学長 有 馬 泉

学友会の皆様、お元気で御活躍
のことと存じます。昨年の四月学
長に就任して早くも一年が経過し
ました。この一年間の大学の動き
について、報告します。

まず、大学の組織の変更として、
従来の自動車工業科工学教室をい
わゆる座学関連の工学第一教室
(主任福井教授)と実習関連の工
学第二教室(主任櫻合教授)とし
ました。

次に、今年度の新入学生は、自
動車工業科入学生は、七五五名、
内女子学生二名、留学生五名で
あります。新入生の出身県は、北
は青森県から南は沖縄まで三六都
道府県に渡つています。また、留
学生は、韓国四名、マレーシア一
名です。このように、アジア諸国
からの留学生を含め全国各地から

大勢の入学生を迎えることができ
ましたことは、学友会の皆様方を
始め、各方面からの厚いご支援の
結果であると感謝致しております。
また、専攻科自動車工学専攻の
入学生は、一三名でその内女子学
生が一名です。本学を卒業し、さ
らに、二年間自動車に関する高等
教育を受けるため勉学の道に進む
学生で、将来を大変期待していま
す。

さらに、昨年度のが就職状況につ
いて報告いたします。昨年度も全
国の大学や短大を卒業した学生に
とつて大変厳しい就職状況で、さ
きほど文部省が発表した就職内定
状況によりますと、三月一日現在
で、就職希望者のうち、内定して
いない人が大学生で約三万六千

人、短大で四万人にのぼつたこと
が明らかになりました。本学の場
合、九十八%強という高い就職率
が得られました。このように高い
就職率が得られたのは、本学創立
以来約一万六千人近い学友会の皆
様方のご活躍により、関係会社の
本学に対する高い評価と深いご理
解が得られているためと思つてい
ます。

一方、大学では、平成三年七月
施行の短期大学設置基準や平成七
年四月の自動車整備士養成施設の
指定等の基準の一部改正を受け
て、中島学生部長を中心にカリキ
ュラムの改正を行いました。改正
の詳細は省略しますが、異なる入
試科目で受験し合格した学生達が
講義や実習に対する関心や理解を
深めるよういろいろ配慮しまし
た。また、今年度より、学友会の
方々の子女を対象とした同窓子女
推薦入学試験を導入しました。
最後になりましたが、学友会の
皆様方の益々のご活躍とご発展を
祈念いたします。



恩師からのメッセージ

工学第二教室主任 櫻谷 興道

学友会の皆さん、お元気ですか。私は機構学と機械工作の講義を担当してきました櫻谷興道です。

本学は、今年四月から、自動車工業科を教養教室と工学第一教室(学科関係)、工学第二教室(実習関係)に組織化し、二教室で教育分野を分担することになり、私は工学第二教室主任に就任いたしました。

本学が開学して来年には三十周年を迎えるわけですが、その間約一万六千人の卒業生が、自動車業界をはじめ、多様な分野でご活躍されていることに、本学教職員一人一人として誠に感慨深いものがあります。とりわけ自動車産業は社会的・経済的な役割が大きいわが国の基幹産業ともいわれており、それを支える技術者の育成は重要な課題といえます。そのような時流に対処して、本学は自動車のメカニクやボデーの整備教育に重点を置き、関係各位のご支援・ご協力により多数の実践的な技術者を送り出してきました。学友会

の皆さんのご活躍を期待する上で、本学の実習教育担当部門の責任者として、時代の変化に対処できる人材の育成が最重要課題であると感じています。

最近になって自動車はエレクトロニクス化、新素材・新機構の採用などの技術革新が進み、自動車生産に従事する者も整備に携わる者も従来とは違う技術力が要求されるようになりました。しかし、それらに対応できるためには、やはり短大二年の教育期間中に基礎的知識や技術をしつかり身に付けることが最も重要であり、そのために私たちが、一人一人の学生の技術的関心が深まるような教育環境整備や授業の工夫を推進することが大切であると考えております。

一方で、本学は自動車整備士養成機関でありますので、資格取得を目的とする学生の認定試験合格実績を他校以上に向上するため、全教職員が努力しております。一八歳人口減少が今後加速して

いく中で、本学の存続・発展の基盤は、何といたっても教育実績であります。本学の技術教育について、実社会での生の経験を積んでおられる学友会の皆さんの率直なご意見を、お聞かせ頂ければ幸いです。

新鋭実験実習棟9号館完成

自動車性能に威力 環境工学等

― 続いて更に充実計画 ―
― 本年後半より 寄付金募集 ―



事務局長 杉浦 禎宣

いよいよ来年は、本学の創設三十周年という記念すべき節目の年に当ります。

クラブハウス棟、学生ホールの完成に続く三つ目の記念事業として、三月末新鋭実験実習棟9号館が完成しました。(号館名の整理に

より図書館棟は10号館と改称されました。)

新鋭実験実習棟9号館は、平成七年度私立学校施設整備補助事業としての申請が、文部省私学部に採択された新鋭教育装置を設備した実験実習棟で、総事業は約一億一千万円、4WDシャーシダイナモメータ、ドライバース・エイド、エンジン排ガス分析装置等を備

し、任意の走行状態設定の下に、動力性能、運動性能、環境保全、安全性など広範囲な今日的課題を体系的に理解させることを目的とし、高い教育効果を目指して、既に効率的な運用を検討する委員会も発足、今後に大きな期待が寄せられています。

新鋭実験実習棟9号館は、検査実習棟4号館の裏(山側)に位置し、建物には三千八〇〇万円(三三・三三三平方メートル)、機械装置設備費として六千八五〇万円(内、補助金二千九三五万円)、その他約三五〇万円の投資がなされたもので本学活性化の願いがこめられています。

四つ目の記念事業としては、目下管理棟の改修が検討されており、本年度内に外構工事を含め、学生サービスを主眼に装いを一新してお目見得の予定であります。

また、五つ目の記念事業として、実験実習棟の更新拡充計画を予定しており、各教育部署で内容を検討中です。

本年後半からは、これらの目的遂行のための寄付金募集に着手する計画でありますので、学友会会員各位の絶大なご支援をお願い致します。

実習の紹介

― シヤシ実習Ⅱ ―

今年度、一年生の実習科目は4科目で、ガソリンエンジン実習Ⅰ、ジーゼルエンジン実習Ⅰ、シヤシ実習Ⅰ、シヤシ実習Ⅱと科目名も変更になり、自動車基礎実習は、



排ガス分析装置



排ガス分析装置

Meiden engine test equipment

学 友 会

シヤシ実習Iにおいて行われることになりました。

シヤシ実習IIは、当初の科目名は、特殊装置でした。当時の授業内容は、現在とは異なり、その頃車両に関する事情が違っていたことが思い出されます。



写真右から久世、松山、服部先生

現在では、その実習内容は次第に理解し難くなっていると思われるます。そこで、当時の科目で使用した整備機械名を紹介しますと、

ボーリング・マシン、ホーニング・マシン、クランクシヤフト・グライнда、ピンホール・ホーニング・マシン、メーン・ベアリング・ライン・ボーリング・マシン、サーフェス・グライнда、ブレーキ・ライニング・ストリッパ、ブレーキ・ライニング・グライнда、ボンディング・オープン、ボンド・テスタ、ブレーキ・ドラ

ム・レース、となりませんが、使用目的がわかりでしようか。

これらの機器を使用している整備内容は、シリンド・ブロックの修正、ジャーナル・ベアリングの修正、クランク・シヤフトの研磨・修正、ブレーキ・ライニングの張り替え、シリンド・ヘッドの修正、コネクティング・ロッドの修正、バルブの修正、などです。

現在では、大幅に内容も変わりますが、シヤシ実習IIにおいては、自動車



のこを行ってあります。

a項目、オートマチック・トランスミッション、ここでは多くの車両に用いられている、トル

ク・コンバータと遊星歯車を用いた方式の一機種を取り扱っています。

b項目のブレーキでは、基本構造、アンチロック装置、負圧式制動倍力装置、圧縮空気式制動倍力装置、エア・ブレーキ、排気ブレーキ、スプリング式ブレーキについて、構造・作動の確認、ブレーキ倍力装置テスタによる性能試験を行っています。

c項目のステアリング装置では、各種ステアリングの構造・作動の確認及び分解・組み立て、プレロードの測定、パワー・ステアリング・テスタでの性能試験を行っています。

その他の内容としては、A/Tの油圧点検及び油圧変化の記録、



負荷変化における変速点の変化の測定とか、エア圧作動のシミュレーションでの作動確認、ABSの各センサーの信号の記録、作動の記録、操舵角・操舵力計による計測、油圧の点検を行っています。

各装置の役割は重要で、ブレーキを踏んだのにうまく止まらなかった。ハンドル操作を行っても曲がり切れなかった。ギヤの選択が運転者の意思に合わない。このような運転者の技量の未熟とされがちなところもある。これは車の各機構に課せられる使命であるかも知れない。したがって各装置への期待は大きく、車両も、次第に複雑な機構になりつつあり、授業内容について考えさせられております。

最後に、OB諸氏の活躍と発展を祈ると共に、御指導を戴ければ幸いです。

在学生より



専攻科一年
福井商業高校
谷口さきえさん

私が専攻科に入った理由は、中日本自動車短大に入学する前から決めていたのと、私が一年生の時

に知り合った専攻科の先輩がとても楽しそうに自分の研究の事を話してくれた事が印象に残っています。

専攻科って何をすると決められている訳ではありません。自分達でやりたい事を見つけてやりたい様にやって研究して、自分が納得するまで考えるんです。本科の授業は、ほとんど必修なのに専攻科の前期の必修科目は一つだけです。それなのに私達専攻科生は毎日学校に行ってます。なぜならそれは、自分の研究に必要だったり、興味があったり知識を深めたかったり人によっていろいろですが、楽しんで学校に行ってます。

これからの二年間を長く思っただけ短く思っただけこれからのがんばり、楽しみ方です。これから先の二年をがんばって楽しみながら、過ごしたいと思えます。



二年
敦賀高校
谷口千江巴さん

自動車の事は何一つ知らない私がこの学校に入学し、一年が過ぎました。入学当時は、緊張と戸惑いで実習授業などを受け、ただ先生に言われたことをこなしていく

のが精一杯で、周りの男子にも頼
ってばかりでしたが、部品や構造
を勉強していくにつれて実習が楽
しくなってきました。実習の先生
方もすごく親切で、理解するまで
しっかりと教えてくれます。そのよ
うな事もありすっかり慣れた頃には
もう一年生が終わり、新たな気
持ちで二年生を迎えました。

今年、この短大に入学した目
的でもある二級整備士を取得する
という事で、この目標を達成する
ためにがんばろうと思います。ま
た、就職難といわれる中で就職先
を見つける事は容易な事ではない
ですが、自分がやりたい仕事に就
けるよう活動していきたいです。

短大生活も今年一年だけなので今
しか出来ない事を精一杯やり、悔
いが残らないように、卒業はもち
ろんのこと二級整備士と就職の決
定を無事にやり遂げたいです。

○ B 近 況



(株)エフシーシー
第二十三期
川崎義弘さん

中日本短大を卒業して今春で五
年が過ぎ時の流れの速さを感じて
います。現在私は(株)エフシーシー

という自動車部品製造メーカーの
開発部門に所属し、四輪MT車用
クランチのベンチテストを担当し
ています。

製品の機能、耐久性を確認しN
G箇所があれば対策を検討する業
務ですが、OK・NGの判断を誤
ると、市場クレーム等につながる
為、常に緊張感と正確に見極める
目(まだまだ未熟です)が求めら
れます。この仕事のやりがいは車
造りに自分の意志を多少なりとも
反映出来ることです。街で自分が
開発に参加した車を見るところし
くなりません。同僚にも恵まれ仕事
以外でも夏はバイク冬はスキー
と、忙しい日々を過ごしています。

最近自動車業界はメーカーの系
列という意識が薄れ、性能が高く
なおかつコストの安い部品を優先
して採用する傾向が高まっていま
す。部品メーカーにも、独自の技
術力が問われる時期になっていま
す。中日本短大で車全般について
学んだおかげで、一部品にとらわ
れることなく車を総合的に考えら
れることは私にとって大きな財産
になっています。今後とも、学ぶ
ことは沢山ありますが一人前の技
術者になれる様、努力していきたい
と思います。

と、忙しい日々を過ごしています。



ホンダベルノ愛知
第二十五期
前田真吾さん

私は昨年度、無事この中日本を
卒業することができ、現在ホンダ
ベルノ愛知でサービスマンとして
働いています。

学生の頃の私は何とか卒業さえ
できればそれでいいや、といった
感じで平々凡々な学生生活をして
きました。そして学生の時はそれ
で十分すぎるほどやっていけまし
たが就職してみてもそのつげが重く
のしかかっている毎日です。

実際、仕事内容では新車整備、
初回点検、初回6カ月点検、12カ
月の作業をやっていますが、分か
らないことだらけで、OBの方に
言われたんですが、「分からない
ことはどんな事でも恥ずかしがら
ずにどんどん聞け」。これを頭に
置いて、調べては質問しての繰り返し
です。

こんなことではあきれられてしま
いそうですが、先輩方は皆さん
親切で、文句一つなく、全て納得の
いくよう指導してもらっています。
なんとか早く一人前の整備士に
なれるよう努力していきたいと思
っています。

認定試験の合格率

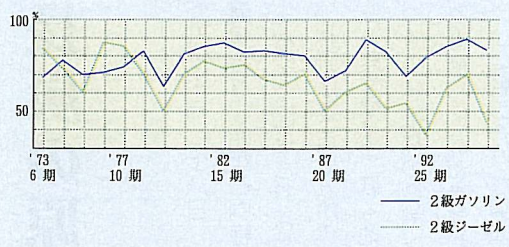
技術研修課

今年、三月二十四日(日)に認定試
験の学科試験が行われ、その結果
を報告します。

今年の認定試験合格率は、ジー
ゼル四十三・五%で平均を下回っ
たものの、ガソリンでは八十二・
五%と平均を上回る結果となりま
した。グラフは六期生からの合格
率を表します。

本年度は、心機一転してさらに
合格率がアップするよう努力して
行きたいと思っています。

OB諸兄の今後の活躍を期待し
ますと共に、資格取得の為に指
導、ご援助も併せてお願い致しま
す。



一九九五年度事業計画

事業担当幹事

1. 総会の開催
九月二十九日美濃加茂シティ
ホテルで行います。
2. 会報の発行
従来通り発行する。
3. 支部設立に向けて一層積極
的な取組を展開する。また
既存の支部の活性化を図る。
4. キャンパスグッズの一層の
充実を図る。
試作品をつくる。(テレホン
カード)
5. 三十周年記念名簿作成に向
けて調査をする。
6. 大学との懇談会を行う。
(五月に懇談会を行いました)
7. 準会員との交流会を持つ。
(昨年十月に学生自治会と交
流会を行いました)
8. 講演会の開催
研究者・専門家等の講演
講演者：小林繁男 森林総合
研究所立地評価研究室長
(大学祭期間中に行いました)
退職者に記念品贈呈する。
(定年退職者一名)
9. 卒業生に記念品を贈る
学生会規約を配布する。
三千円程度のものを贈る。
10. 積立金(学生会館設立積立
奨学金積立)について。
継続する。
11. 奨学金支給をする。
(二名に支給しました)
12. OBへの福利厚生
長島温泉割引(適切なものが
あれば随時考える)
- 13.

1994年度 収支計算書

1994年8月1日~1995年7月31日

Table with 5 columns: 科目, '94年予算額(イ), '94年決算額(ロ), 予算超過額(イ)-(ロ), 執行率%. Rows include I. 収入の部 and II. 支出の部 with various sub-items like 基金運用収入, 会費収入, etc.

監査報告書

平成7年9月24日

平成6年度、中日本自動車短期大学学友会の決算に関する監査の結果を次の通り報告します。

- 1. 監査の書類
総勘定元帳 (平成6年8月1日~平成7年7月31日)
帳票書類及び領収書等 (平成6年8月1日~平成7年7月31日)
収支計算書及び付属書類
貸借対照表
2. 監査日時 平成7年9月20日
3. 監査の状況
平成6年度の収支及び会計状況について、上記書類を監査した結果、適法且つ適正に処理されていると認められる。

以上により、平成6年度の決算に関する会計処理については、適正に会計処理されていることを確認しました。

監査役 吉田豊彦



” 佐藤一夫



貸借対照表

1995年度7月31日現在

Table with 4 columns: 科目, 1993年度, 1994年度, 増減. Rows include 資産の部 (流動資産, 固定資産) and 負債及び正味財産の部.

農業耕作地として利用するためや木材資源としての伐採により、天然の熱帯林が減少し、そのための土壌の透水性や酸素濃度が変化する。その後、時を経て植生が回復する。そんな熱帯雨林やサバンの遷移過程について、スライドを交えながら説明していただきました。森林の樹木を下から見上げたとき、隣り合う木々の枝葉が、太陽の光と空間を奪い合う結果でできた見事なモザイク模様や、炭の原料として、日本で大量に消費されている、代表的な熱帯樹木である『フタバガキ』の話など、大変興味深い内容でした。

備長炭の原料？熱帯雨林

文化講演会

一九九五年十月二十八日、第六回文化講演会が、昨年と同様本学の二二三教室で開催されました。今回は、林野庁総合研究所の小林繁男先生(農学博士)に『地球環境にとつての熱帯林の役割は?』と題してお話しいただきました。およそ二〇〇名の方々が講演を聴講され、また当日は大学祭も開催されており、なかなかの賑わいでした。

講演終了後は、予定時間が過ぎても聴講の方々からひっきりなしに質問が続ぎ、司会者が困ってしまつほどでした。アンケートでは、「今回も参加させていただきました」とか「この講演会を楽しみに待っていました」などの意見が寄せられ、学友会文化講演会のファンの方々が定着してきたようです。次年度も、この地域の方々のご期待に応えることができるような内容で、講演会を企画したいと考えております。

編集後記

会員の皆さんお元気ですか。
本年は、開学三十周年を来年に控えている年で、母校も時代の流れと共に変貌しつつあります。
新実習棟、クラブハウス、学生ホール完成、専攻科開設、シヤースティナモ実験実習棟完成など学生の育成に数々の発展が伺えます。
その様なかでおかげさまで学友会報も、第十五号を発行することができました。
発行にあたりまして、ご協力いただいた方々に心より厚くお礼を申し上げます。
今後、会員の皆様へ大学の様々な情報をお届けできるよう努力いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。